

2022年度 東京動物園協会野生生物保全基金 助成研究テーマ「国内に生息する野鳥の鉛汚染の実態調査」
ヤマザキ動物看護大学 動物看護大学 牛根奈々

【背景】重金属の鉛Pbは、私たちの生活の中から環境中に排出され、ヒトを含めた動物の体内に入ります（鉛汚染）。鉛汚染は動物の中でも鳥類で影響が大きいといわれています。

【目的と方法】北海道以南の地域では、その地域の野鳥の汚染実態が明らかにされていません。そこで実態把握を目的に、傷病鳥救護施設に協力を仰ぎ、野鳥の鉛濃度を測定しました。

【結果】25の自治体に協力をいただき、375羽（14目77種）を調査しました。解析の結果、・13目に**低濃度汚染**が生じており、・**カモの仲間**は他よりも体内の**鉛濃度が高く**、・**狩猟区域で保護**された鳥は、**狩猟禁止区域で保護**された鳥よりも体内の**鉛濃度が高い**ことがわかりました。

【考察】この調査によって、**土地の鉛汚染が動物の汚染**に関する可能性だけでなく、ヒトの鉛汚染にも繋がる「ジビエ」としての**野鳥の健康に配慮した環境浄化**を図る必要が考えられました。

